

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年6月29日(火) 5校時
学 級 4年3組 男12名 女20名 計32名
授業者 T1;大川原 章郎 T2;高橋 祐介

- 1 単元名 本の世界を広げよう「白いぼうし」(6時間)
「本のさがし方」(3時間)
「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」(8時間)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、3つの教材から構成されている。「白いぼうし」「本のさがし方」は、学習指導要領「C読むこと」の目標「(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」を、「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」は、「B書くこと」の目標「(2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」を受けて設定した。

「白いぼうし」の学習では、叙述に即して情景を想像しながら物語を味わうことを通して、シリーズ物の楽しさを知ることを目指し、また「本のさがし方」「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」の学習では、図書館にある多くの本に興味をもっているいろいろな本を読み進めたり、自分の選んだ作品を紹介し合ったりすることを通して、読書の幅を広げることを目指している。

この教材は、松井さんと紳士との会話、松井さんと白いぼうしとの出会い、松井さんと女の子との出会い、女の子がいなくなってちょうが飛んでいる野原、の4つの場面から構成されており、書き出しと結びは夏みかんのにおいて照応している。各場面には松井さんの善意あふれる行動や会話の中に、優しい人柄が表れている。そして、その優しさが「白いぼうし」「なみ木の緑」などの色彩表現や夏みかんの香り、「日の光をそめつけたような」といった比喩表現などのさわやかさと重なり合い、子どもたちはイメージを豊かに読み進めることができる。現実と非現実とが交錯する文章構成にしたり、指示語や擬態語を使ったりしていることも場面の状況を豊かに想像させるのに大変効果的である。子どもたちは読み進めていくうちに松井さんに親しみ、その行為に共感して、この作品に満ちあふれている優しさに触れることができるに違いない。そして、そんな松井さんに、他のシリーズ作品ではどんな出来事が起こるのか、興味をもつことになるであろう。

「本のさがし方」「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」は、「白いぼうし」の学習を通して喚起された読書意欲を、より豊かな読書生活へとつなげていくためのものである。「本のさがし方」において、図書館には多種多様な本が分類されて置かれていること、そして、それを活用することで目的の本が探しやすくなることを理解することは、読みたい本を上手に探すことのできなかつた子どもたちにとっては図書館への親しみをもつ足がかりとなるであろう。また「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」では、自分の選んだ本をポスターの形にして、友だちに紹介する活動を行う。本の楽しさ、おもしろさをポスターの形で再構成する活動を通して、子どもたちはその作品の感動をより深くすることができるのではないかと考える。

このように3つの教材は、はじめに物語を読み、次にそれが自分から物語を探して読むことに発展し、さらに自分の選んだ物語を他の人に紹介することへと発展している。この一連の活動を通して、子どもたちの読書生活は、さらなる広がりをもつことになるであろう。以上の点から、これらの教材は単元の目標を達成するのにふさわしい教材であると考えられる。

(2) 子どもについて

子どもたちは3年生の時に「きつつきの商売」「三年とうげ」「ちいちゃんのかげおくり」で、叙述に即して登場人物の気持ちや性格について考えたり、場面の様子を想像したりする学習を行っている。3年生の時の一人学びでは「中心となる段落(文)へのサイドライン 視写 書き込み」を、重点的に行ってきた。この学習を通して、大切な文やことばを見つけ出そうという姿勢や、それらに着目して人物の気持ちを想像しようという態度が育ってきている。学び合いでは、一人学びで読み取ったことを、4人のグループで交流し合う学習も経験している。しかし、このグループ学習は、自分の考えを発表するだけの場になってしまっている。多くの子どもたちが、友だちの考えのよい点を認めた発言をしたり、付け足しをしたりすることはできるようになってきてはいるが、友だちとちがった考えを述べたり、友だちの考えに疑問や反対をしたりすることのできる子どもは少ない。そのため、子どもたちが主体的に学び合いを行っているとは言い難い。子どもたちが、学級全体の学び合いにおいて、臆することなく自分の考えを発表したり、友だちの考えに対して疑問や反対の考えを述べたりすることで、よりよい学び合いをすることができるようにしていきたいと考える。

読書に関しては、積極的に図書館に通い、本を借りてくる子どもが多く見られる。しかし、読む本の種類がほぼ決まっているような子どもや、未だに絵本などの文章の短い本ばかり好む子どももいる。また、総合的な学習の時間の調べ学習などで、図書館のどこにどのような本があるのか分からず、決められた時間の中で目的の本を探すことができずに終わってしまう子どもも少なくない。

また、「三年とうげ」の学習の後、他の人に自分の好きな本を紹介するという目的で「本の帯作り」を経験している。この時、ほとんどの子どもたちが、イラストを入れたり、粗筋や推薦の文を書き入れたりしながら楽しんで学習をすることができた。

本単元では、子どもたちが主体的に活動できるような展開を心がけていきたい。「白いぼうし」は、詳細な読解を求めない読書単元の教材である。そこで、場面ごとの読み取りは行わず、教材文全体を通しての読み取りを行う。そのために、今回初めて「抜き書き 書き込み」という一人学びを行い、子どもたち一人一人が、自分なりの考えや思いをもって教材文を読み進めたり、抜き書きをしたりすることができるようにしていきたい。その後の学び合いでは、グループ学習の段階から友だちの考えに対する意見や質問を出させるようにしていきたい。そして全体での学び合いでも、子どもたち一人一人が、友だちの抜き書きをした文や部分の違いを認め合うと同時に、積極的に友だちと違った考えや、友だちの考えに対する疑問や反対の考えを出すことができるようにしていきたい。

また、「ポスターをかいて、作品をしょうかいしよう」の学習では、紹介する目的や相手を明確にし、しっかりと意識させることで、内容を精選したり表し方を工夫したりしながら書く力を付けていきたい。

(3) 指導について

本単元は、「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。指導にあたっては、子どもたちがこれまで培ってきた読むことや書くことの力を発揮して、主体的に学習に取り組むことができるようにしていきたい。また、3つの教材の一連の学習を通して、子どもたちの興味が、さらに大きな本の世界へと広がっていくような展開になるように心がけていきたい。そのために、TTや少人数指導による授業形態を取り入れ、子どもたち一人一人の実態や興味・関心を考慮しながら、きめ細かな指導を行っていきたい。

「白いぼうし」は、松井さんの優しい心と、それを包み込む温かく豊かな表現を味わいながらファンタジーな作品の世界を楽しんでいくようにしたい。そのために、松井さんの行動や様子、会話文などから松井さんの優しい人柄を読み取ったり、色やにおいの豊かな描写から情景を読み取ったりしていく。その際、詳細な読解にならぬようにし、また、一つの考え方や感じ方に統一していくのではなく、感じたことを自由に交流し、それぞれにいろいろな感じ方があるのだということを理解できるようにしていきたい。そして、「車のいるは空のいる」シリーズの他の作品

の比べ読みを通して、シリーズ作品への興味ももたせられるようにしていきたい。また、本教材の読み取りは、教材文全体を通して行うため、子どもたちの読み取りのスピードや深まりに大きな差が見られることが予想される。そこで、TTの授業形態をとり、子どもたち一人一人の実態に合わせたきめ細かな指導を行うことができるようにしていく。

「本のさがし方」は、学校司書と連携を図りながら学習を進めていきたい。目的の本を探し出せないことが、読書意欲の減退へとつながらないようにするために、図書館の本の配置を記した「本の地図」を作成したり、背ラベルの表記をクイズ形式やゲーム形式で学習したりと、子どもたちが楽しんで授業に参加できるような工夫をしていきたい。

「ポスターをかくて、作品をしょうかいしよう」は、単元全体の締めくくりの教材であることから、ポスターを用いた作品紹介が楽しく積極的にできるような活動を心がけていきたい。そのために、ポスターをかく目的や、ポスターにして表すことのよさを話し合ったり、誰に向けて紹介したいのかということをはっきりさせたりすることで、活動に向けての意欲を高めていくようにする。その一方で、目的意識や相手意識を明確にすることを通して、レイアウトや見出しの工夫をしたり、情報の収集や選択をしたりする力もつけさせていきたいと考える。また、授業の形態に関しては、子どもたちの実態や、子どもたちの選んだ本の種類に対応するために、少人数で行っていくこととする。

3 単元の指導目標

主目標	場面の移り変わりや情景、松井さんの人柄を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。 図書館を利用して、シリーズになっている作品を中心に、読みたい本を探して読むことができる。 友だちが読みたくなるように、作品紹介のポスターを工夫して作ることができる。		
関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> ・叙述をもとに情景を想像しながら読み、ファンタジーな「白いぼうし」の世界を楽しもうとする。 ・シリーズものやいろいろな読み物を選んで探し、読もうとする。 ・紹介したい内容を決めてポスターで表すことに興味をもち、工夫して作ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな読み物に興味をもち、本を探して読むことができる。 ・情景や様子を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。 ・読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。 ・おもしろさが伝わるように作品の内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちが読みたくなるようなポスターにするため、事柄を集めたり選んだりして、自分の考えが明確になるように工夫しながら書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たとえの表現に気をつけて、情景を生き生きと想像することができる。 ・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。

4 指導要領との関連

	読む	書く
目標	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。 ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。 エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。

5 単元指導計画と評価計画 (17時間 本時5 / 17)

次	時	本時の目標	評価場面 (評価方法)	評価規準	具体的評価規準		「C努力を要する」と判断された子への手だて
					A	B	
1	1	範読を聞き、面白かったところや楽しかったところを登場人物の行動から考え、発言しようとする。	教材文を読み、登場人物について感想をもち学習計画を立てる。 (ノート、発言)	面白かったところや楽しかったところについて、自分なりの考えをもっている。 (関・意・態)	範読を聞き、登場人物の行動から面白かったところや楽しかったところを複数発言している。	範読を聞き、登場人物の行動から面白かったところや楽しかったところを発言している。	初発の感想なので自由に交流させ、発言したことを認めてあげる。
2	2	「白いぼうし」を読み、視点を確認しながらあらすじを読み取ることができる。	あらすじを読み取る。 (ワークシート、ノート、発言)	視点に沿って、「白いぼうし」のあらすじを読み取っている。 (読む) 難語句の意味を、国語辞典を使って調べている。 (言語)	登場人物、季節、場所、出来事などの読みの視点を見つけ、あらすじを読み取り、整理しながらまとめている。 国語辞典を使って難語句の意味や用法などを調べ、ノートに書いている。	登場人物、季節、場所、出来事などの読みの視点を見つけ、あらすじを読み取っている。 国語辞典を使って難語句の意味を調べ、ノートに書いている。	グループでの交流の時間を設け、友だちの読み取ったことを自分のまとめに生かさせる。 五十音の表を用意し、教師の提示した語句を調べさせる。
	3	シリーズの他の作品を読み、「白いぼうし」と比べることができる。	「白いぼうし」との共通点や相違点をまとめる。 (ワークシート、ノート、発言)	他の作品の内容を「白いぼうし」と比べながら読んでいく。 (読む)	他の作品の登場人物、季節、場所、出来事などについてまとめるとともに、そのおもしろさを感じ取っている。	他の作品の登場人物、季節、場所、出来事などについてまとめている。	前時に確認した視点を再確認したり、まとめたノートを参考にさせたりする。
5 (本時)	4	「白いぼうし」の情景を想像し、作品のイメージを深めることができる。	色やにおいについての表現の豊かさを感じ取る。 (ノート、発言)	豊かな表現から舞台となっている町の情景を想像している。 (読む) 比喩表現に着目し、その効果を捉えている。 (言語)	色とにおいの両方についての表現を探し出し、町の情景を想像している。 比喩表現を見つけ出し、イメージについての自分なりの考えをもっている。	色かにおいのどちらかについての表現を探し出し、町の情景を想像している。 作品の中から比喩表現を見つけ出している。	松井さんの町の地図を掲示し、イメージをふくらませるための手がかりとさせる。 「～ような」という表現がされている文を探させる。
	5	主人公「松井さん」の優しい人柄を読み取ることができる。	松井さんの優しい人柄を読み取る。 (ノート、発言)	松井さんの行動や様子の描写、会話文を手がかりに、人柄を読み取っている。 (読む)	松井さんの行動や様子の書かれている文や会話文を抜き書きし、松井さんの優しい人柄を読み取り、理由も明確にしながら発表するとともに、ユーモアや誠実さといった人柄も読み取っている。	松井さんの行動や様子の書かれている文や会話文を抜き書きし、松井さんの優しい人柄を読み取っている。	「松井さん」が主語になっている文、松井さんの会話文を手がかりにさせる。
	6	シリーズの他作品について発表することができる。	他の作品のおもしろさをまとめる。 (ワークシート)	「白いぼうし」と他の作品の比べ読みをし、その違いや似ているところをまとめる。	自分の選んだ作品について比べ読みをし、視点に沿ってまとめ、発表	自分の選んだ作品について比べ読みをし、視点に沿ってまと	視点を明示したワークシートを用意し、まとめさ

			ト、ノート、 発言)	る点をまとめて いる。 (読む)	するとともに、シ リーズ物のおもしろ さを感じ取って いる。	め、発表する。	せる。
3	7	図書館での本の 探し方について知 り、本を探そうと する。	図書館で目 的の本をさが す。 (観察)	目的を持って 本を探し、進ん で読書をしてい る。 (関・意・態)	本が分類されて いることや本のラ ベルの意味の大体 を理解し、本棚か ら目的の本を探し て読んでいる。	本が分類され ていることを理 解し、本棚から 目的の本を探し て読んでいる。	本棚の配置 図を見せ、目 的の本を探す ための手がかり にさせる。
	8 ・ 9	「どの本、読も うかな」を読み、 読みたい本を探し て読むことができ る。	シリーズ物 や同じ作者の 作品、いろい ろな物語を探 して読む。 (ワークシ ート、観察)	自分の読みた い本を選び、本 の探し方に沿っ て見つけ出し読 んでいる。 (読む)	自分の読みたい 本を選び、図書 館から見つけ出 して読むととも に、感想を読書 カードにまと めている。	自分の読みた い本を選び、図 書館から見つけ 出して読んでいる。 。	友だちの読 書カードや図 書館だよりを もとに読みた い本を選ば せ、本の置い ている大体の 場所を教え る。
4	10	ポスターのよ さ、どんなところ を工夫したいかな どについて意見を 交流し合うことが できる。	ポスターの よさ、どんな ところを工夫 したいか意見 を交流する。 (発言)	本を紹介する ためのポスター の書き方を理解 している。 (書く)	ポスターと読書 紹介文との違い とポスターの工夫 点を両方を考え 発言している。	ポスターと読 書紹介文との違 いを見つけて発 言している。	ポスターと 読書紹介文を 拡大して例示 し、違いを目 で確認できる ようにする。
	11	ポスターに入れ る作品名、主な登 場人物、面白いと ころなどに注意し ながら読むことが できる。	紹介する作 品を決めて読 む。 (観察)	ポスターに書 く内容を理解し、 必要な事柄をメ モしている。 (書く)	紹介するために 必要な事柄(作 品の題名、作者名、 作品の魅力、好き な場面、あらずじ、 登場人物、選んだ 理由など)を、5 項目以上メモしな がら読んでいる。	紹介するた めに必要な事柄 のうち、3項目以 上をメモしながら 読んでいる。	最低限必要 な項目(作品 の題名、作者 名、面白いと ころなど)を 記した書き込 みカードに書 かせる。
	12	紹介する作品を 決め、ポスターの 構想を練ることが できる。	ポスターの 構想をまとめ る。 (ワークシ ート)	必要な事柄を 整理しながらポ スターの下書き をしている。 (書く)	ポスターに入れ る項目を5項目以 上入れながらポ スターの下書きを している。	ポスターに入 れる項目を3項 目以上入れなが らポスターの下 書きをしている。	書けるとこ ろから書か せ、分からな いところにつ いては、教師 と一緒に書き 込みをする。
	13 ・ 14 ・ 15	工夫をしながら ポスターを作成す ることができる。	ポスターを 作成する。 (行動観察、 ポスター)	相手意識をも ち、工夫しなが らポスターを書 いている。 (書く)	分かりやすい短 い見出しの文やこ とばを考えたり、 読みたいくなるよ うなレイアウトを 工夫したりしなが ら書いている。	ポスターの構 想をもとに、見 出しや内容を工 夫しながら書い ている。	文字の大き さや色につ いて工夫する ように支援す る。
	16 ・ 17	各自がかいたポ スターを持ち寄 り、紹介しあい、 学習のまとめをす ることができる。	読書発表会 をし、自分の 作品や友だち のポスターから 感想をもつ。 (カード、発 言)	ポスターで表 現することの良 さを見つけてい る。 (書く)	友だちのポスタ ーの工夫を見つけ カードに書くこと ともに、自分のポ スターの工夫やそ の意図について説 明している。	友だちのポ スターを見て工 夫を見つけ、カ ードに書いている。	文字の大き さや色の使い 方はどうかにつ いて、友だ ちのポスター の感想を聞く ようにする。

6 本時の指導について

(1) 本時の目標

主人公「松井さん」の優しい人柄を読み取ることができる。

(2) 本時の指導について

本時では、シリーズ全体を通しての主人公である松井さんの優しい人柄を、「白いぼうし」の中から読み取らせていく。しかし、読み取りの苦手な子どもにとっては、この活動自体が学習意欲、さらには読書意欲を減退させる要因にもなりかねない。そのため、個に応じたきめ細かな指導ができるように、TTで指導にあたっていくこととする。

一人学びでは、松井さんの行動や様子の書かれている文や部分、会話文を見つけ出し、抜き書きをさせていく。そして、そこからどんな人柄が分かるかという視点を与えて書き込みをさせ、子ども一人一人が叙述に即した一人学びができるようにさせていきたい。その際、T1は机間指導を通して子どもたちの読み取りの把握にあたり、T2はヒントカードを用いてつまづいている子どもへの支援にあたるようにしていく。

その後の学び合いでは、まず4人のグループ内で、各自の読み取ったことを交流させていく。その際、友だちの考えのよい点などは、積極的に自分のノートに付け加えをしていくようにさせる。その後、学級全体で、グループで交流をしたことをもとに、松井さんの人柄について話し合わせていく。この時、T1は話し合いの進行にあたり、T2は発表に消極的な子どもへの支援にあたるようにする。この話し合いを通して、作品全体にあふれている松井さんの優しい人柄について学び合いをしていくようにしたい。

(3) 本時の展開

	学習内容 学習活動	教師の支援 ・留意事項	評価 ・準備
つ か む (3)	1. 前時想起をする。	・前時に書いたまとめから「白いぼうし」の作品イメージを思い出すことができるようにする。 T1 指名をし前時のまとめを発表させる。 T2 町の地図を提示するとともに、課題把握の状況を確認する。	・町の地図 前時の学習内容を受けて、「色やにおい」を散りばめておく。
	2. 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">主人公の松井さんは、どんな人なのだろう。</div>	・作品全体から、松井さんの人柄を考えることを確認させる。 T1 机間指導をし、学習課題をノートに書かせる。 T2 学習課題を書いた紙板書を掲示する。	・課題紙板書
ふ か め る	3. 見通しを立てる。 (1) 読みの視点を確認する。 松井さんの行動や様子が書かれている文、会話文を視点として確認する。	・松井さんの行動や様子、会話文から人柄を読み取っていくことを確認させる。 T1 発問をし、視点を発表させる。 見通しを立てることのできた児童の確認をする。 T2 視点を板書する。 見通しを立てることが不十分な児童への個別指導をする。	

<p>ふか</p>	<p>4 . 松井さんはどんな人なのかについて一人学びをする。 (1) 松井さんの人柄を読み取る。 松井さんの人柄が分かる文や部分を見つけ出し、抜き書きをする。そして、どんな人柄が分かるかを書き込みをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転手の松井さんは、にこにこして答えました。 ・ 「～においまでわたしにとどけたかったのでしょうか。」 ・ 「あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」 ・ 「おや、～車がひいてしまうわい。」 ・ 「せっかくのえものがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」 ・ 松井さんは、その夏みかんに～石でつばをおさえました。 ・ 「ふふふっ。」ひとりでに笑いがこみ上げてきました。 	<p>T 1 松井さんの行動や会話文に着目させることで、抜き書きできるようにする。 机間指導をして、子どもたち一人一人の読み取りの状況を把握する。また、優しさとともにユーモアや誠実さの感じられる松井さんの人柄を捉えるなど、叙述をもとに、よりよい読み取りをしている子どもへの評価を行う。</p> <p>T 2 ヒントカードを用いて、つまずいている子への支援を行う。 ・ 「主語が『松井さん』になっている文を探そう。」 ・ 「作品の筋に沿って、松井さんの人柄が感じられる部分にサイドラインを引こう。」</p>	<p>松井さんの行動や様子の描写、会話文を手がかりに、人柄を読み取っているか。</p>
<p>める</p>	<p>5 . 松井さんはどんな人なのかについて高め合いをする。 (1) グループで、松井さんの人柄について読み取ったことを交流し合う。 リーダーを中心に、各自の読み取ったことを発表する。 (高め合い1)</p> <p>(2) 学級全体で、松井さんの人柄について読み取ったことを話し合う。 作品全体から、そして言動の一つ一つから松井さんの優しい人柄を読み取る。 (高め合い2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの発表に対して、質問や意見を言わせたい。 ・ グループの友だちの発表で見つけたよい点は、自分のノートに付け足しをさせる。 <p>T 1 机間指導をし、話し合いの進行に助言をしたり、評価を行ったりする。</p> <p>T 2 机間指導をし、話し合いの進行に助言をしたり、評価を行ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの考えをよく聞き、相違点や共通点に気づかせるようにする。ハンドサインの活用も促す。 <p>T 1 発問をし、話し合いを進行する。作品の全体から発表させるようにする。</p> <p>T 2 日頃から発表に消極的な子どものノート確認などを通して、読み取りの状況の確認をしたり読み取りの不十分な子どもへの指導を行う</p>	<p>・ 紙板書</p>

ふかめる	<p>6. 本時のまとめをする。 (1) まとめの音読をする。 場面を選び、読み取ったことを生かしながら音読をする。 指名音読</p>	<p>たりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について板書で振り返った後、松井さんの人柄についてのまとめを発表させる。 ・ 学級で決めた音読記号を示し、工夫をする際の手助けとさせる。 <p>T1 学習のまとめをする。また、音読をする子どもを指名し読ませるとともに、読みのよかった点を確かめる。</p> <p>T2 聞き手となる子どもたちを観察するとともに、読み取りの不十分な子どもへの指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挿し絵 単行本中の松井さん
ひろげる	<p>7. 振り返る。 (1) 自己評価をし感想を書く。 (2) 感想を発表する。</p> <p>8. 次時の学習課題を確認する。 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードに自己評価をし、感想を書かせる。 <p>T1 机間指導をし、自己評価に取り組みさせる。</p> <p>T2 読み取りの不十分だった子どもへの指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「白いぼうし」と「車のいろは空のいろ」シリーズの他作品を比べ読みをすることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカード ・ 「車のいろは空のいろ」の単行本

(4) 板書計画

白いぼうし

主人公の松井さんは、どんな人なのだろう。

松井さんの行動
様子
会話文

- ・ 松井さんは、にこにこして答えました。
- ・ 「においまでわたしにとどけたかったですよ。」
- ・ 「あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」
- ・ 「おや、車道のあんなすぐそばに、小さなぼうしが落ちていぞ。風がもうひとふきすれば、車がひいてしまっわい。」
- ・ 「せつかくのえものがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」
- ・ 松井さんは、その夏みかんに白いぼうしをかぶせると、飛ばないように、石でつばをおさえました。
- ・ 「ふふふつ。」ひとりでに笑いがこみ上げてきました。

やさしい
思いやりがある
ユーモアがある

イラスト
単行本中の
松井さん

「白いぼうし」教材構造図

主題 松井さんの無償の行為に象徴される優しさ

主目標 場面の移り変わりや情景、松井さんの人柄を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。

「関心・意欲・態度」 叙述をもとに想像しながら読み、ファンタジーな「白いぼうし」の世界を楽しもつとする。

「読むこと」 情景や様子を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。

「言語事項」 たとえの表現に気をつけて、情景を生き生きと想像することができる。辞書を利用して調べることができる。

場面の内容	色やにおいの表現と松井さんの言動	言語事項
<p>一・いなかのおふくろから、夏みかんが速達で届く。うれしくてそれを車にのせていた松井さんが、においに気づいた紳士と話ををする。</p>	<p>色やにおいの豊かな表現を読み取る。 ・「これは、レモンのにおいですか。」 ・信号が赤 ・白いワイシャツのそで ・ほう、夏みかんでのは、こんなににおうものですか。」 ・信号が青に変わると ・松井さんの優しくあなたがかい人柄を読み取る。 ・「いいえ、夏みかんですよ。」 ・運転手の松井さんは、ここにこして答えました。 ・「においまでわたしたとどけたかったです。」 ・あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」</p>	<p>・夏がいきなり始まったような ・ほりばた ・しんし ・ここにこ ・たくし上げる ・もぎたて ・うら通り</p>
<p>二・車にひかれそうな帽子に気づいた松井さんは、中のもんしろちようを逃がしてしまふ。男の子ががっかりしないようにと、代わりに夏みかんをそつと入れておいた。</p>	<p>色やにおいの豊かな表現を読み取る。 ・緑がゆれているやなぎの下に、かわいい白いぼうしが、ちょこんと置いてあります。 ・なみ木の緑の向こうに ・赤いししゅう糸で ・まるで、あなたがかい日の光をそのままめつめたような、見事な色でした。 ・すっぱい、いいにおいが、風で辺りに広がりました。 ・松井さんの優しく誠実な人柄を読み取る。 ・「おや、車道にあんなすぐそばに、小さなぼうしが落ちていいるぞ。風がもつひとぶきすれば、車がひいてしまふわい。」 ・松井さんは車から出ました。 ・あわててぼうしをふり回しました。 ・「ははあ、わざわざここに置いたんだな。」 ・小さなぼうしをつかんで、ため息をついている松井さん ・「せっかくなのえもがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」 ・松井さんは、その夏みかんに白いぼうしをかぶせると、飛ばないように、石でつばをおさえました。</p>	<p>・まるで、あなたがかい日の光をそのままめつめたような ・なみ木 ・ひらひら ・ししゅう ・じろじろ ・かたをすぼめる ・つば</p>
<p>三・松井さんが車に戻ると、おかつぱのかわいい女の子が座っていた。松井さんは、せかされるがままに発車する。</p>	<p>色やにおいの豊かな表現を読み取る。 ・水色の新しい虫とりあみ ・やなぎのなみ木 ・松井さんの優しく実直な人柄を読み取る。 ・「ええと、どちらまで。」 ・「菜の花橋のことですね。」 ・松井さんは、あわててアクセルをふみました。</p>	<p>・つかれたような ・元気そつな ・おかつぱ ・ぐいぐい ・せかせか ・みるみる</p>
<p>四・男の子の様子を想像する松井さんは、女の子がいなのに気づき、慌てて車を止める。小さな野原で、幻想的な情景を見る松井さんに、ちよのの声とも自分の心の声ともしれぬ声が聞こえる。</p>	<p>松井さんの優しく純真な人柄を読み取る。 ・すると、ぼかっと口をOの字に開けている男の子の顔が、見えてきます。 ・「ふふふつ。」ひとりりで笑いがこみ上げてきました。 ・松井さんには、こんな声が聞こえてきました。 ・色やにおいの豊かな表現を読み取る。 ・白いちようが、二十も三十も、いえ、もつとたくさん飛んでいました。 ・クローバーが青々と広がり、わた毛と黄色の花の交ざったたんぼぼが、点々のもようになつてさいています。 ・その上をおどるように飛んでいるちよう ・車の中には、まだかすかに、夏みかんのにおいが残っています。</p>	<p>・おどるように ・シャボン玉のはじけるような ・こみ上げる ・団地 ・かすかに</p>